

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 計画

学校評価表作成について変更した点は朱書きしています

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

1 前年度 評価結果の概要	<p>・教育教育目標「夢実現に挑戦し、努力する生徒の育成」の目標達成に向けて、学習面では「わかる授業」を目指して、R80を取り入れた振り返りを行うことで、生徒の学力向上を目指した。ほぼ全職員がステップ2以上の目標達成とタブレットの授業活用90%を達成した。職員相互授業参観やタブレットPCのミニ研修会を行い、指導力向上を目指した。今後も継続して取り組んでいく。</p> <p>・不登校生徒対策として、別室登校や支援センターとの連携を行うことで、不登校生徒数の削減に努めた。SCやSSW、支援センター等と連携協力をする中で、不登校の未然防止、早期対応に努めた。今後も継続して取り組んでいく。</p>
------------------	--

2 学校教育目標	夢実現に挑戦し、努力する生徒の育成
----------	-------------------

3 本年度の重点目標	(1)不登校対策及び特別支援教育の充実 (2)学力向上 (3)人権・同和教育の推進 (4)教職員の時間外勤務の縮減
------------	---

4 重点取組内容・成果指標

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		主な担当者		
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価				
				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果		評価	意見や提言
●学力の向上	○教師の指導力向上	○学力向上対策評価シートを示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上を目指す。	・教師間でマイプランを共有するとともに、相互授業参観などを通して、教師の指導力向上を目指す。	B	・サポート会を中心に、教師間でマイプランを共有するとともに、相互授業参観などを通して、教師の指導力向上を目指している。今年4回の研究授業が終了し、指導力向上を目指すことができた。	B	・サポート会を中心に、教師間でマイプランを共有するとともに、相互授業参観などを通して、教師の指導力向上を目指している。今年5回の研究授業が終了し、指導力向上を目指すことができた。	B	・2年に1回は研究授業を行うという計画が実行できなかった。指導力向上を目指して、計画的に行う必要がある。	学力向上コーディネーター
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	●道徳の授業で考え・議論することを通して、多面的・多角的に考え、自身の内面や考えの変化に気づき、自分なりの納得する答えを見出すことができる生徒80%以上を目指す。	・講師を招聘し、道徳の授業づくりに関する研修を深める。 ・「ふれあい道徳」を通して、保護者の理解を深め、家庭・地域の教育力向上に努める。	A	・「ふれあい道徳」を通して、保護者の理解を深め、家庭・地域の教育力向上に努めた。 ・講師を招聘しての授業づくりの研修会は行うことはできなかったが、ローテーション道徳を	A	・「ふれあい道徳」を通して、保護者の理解を深め、家庭・地域の教育力向上に努めた。 ・学年部会で指導案検討から授業実施、授業研究会を行うことで授業力向上に努めてい	A	・今後も継続的に取り組んでいく必要がある。	道徳教育推進教師
●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	●QUの要支援群生徒の割合を5%以下にする。 ●生徒支援委員会を週1回開催し、生徒理解に努める。	・月1回の生活アンケートをもとに、生徒の実態把握に努める。 ・生徒指導協議会、生徒支援委員会などを通して情報共有し、SC、SSWなどと連携協力し、いじめの早期発見、早期対応に努める。	B	・月1回の生活アンケートをもとに、生徒の実態把握に努めることができています。 ・ケース会議などを通して、SC、SSWなどと連携協力し、いじめの早期発見、早期対応に努	B	・月1回の生活アンケートをもとに、生徒の実態把握に努めることができた。 ・ケース会議などで、SC、SSWなどと連携協力し、いじめの早期対応、再発防止に努めたり、人権ワークや人権集会をとおして、人権意識の高揚に努めた。	B	・生徒支援会議では、情報共有だけでなく、解決に向けての話し合いが必要である。	教育相談主任
	◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	◎「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒90%以上を目指す。 ◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上を目指す。	・各種行事において、生徒の出番、役割を増やすことで自己肯定感を高めさせる。 ・職業人講話や高校説明会などを通して、将来について考えさせる。 ・生徒の視野を広げ、生き方や夢の実現に向けて考えさせるような講演会を実施する。	A	・校訓の「豊かに自律たくましく自立」達成に向けて、各種行事等において、生徒の出番、承認、役割を増やすことで自己肯定感を高めさせている。 ・マナー講話や高校説明会などを通して、将来について考えさせることができた。 ・生徒の視野を広げ、生き方や夢の実現に向けて考えさせるような講演会を実施することができた	A	・校訓の「豊かに自律たくましく自立」達成に向けて、各種行事等において、生徒の出番、承認、役割を増やすことで自己肯定感を高めさせている。 ・マナー講話や高校説明会などを通して、将来について考えさせることができた。 ・生徒の視野を広げ、生き方や夢の実現に向けて考えさせるような講演会を実施することができた	A	・今後も生徒の出番・承認・役割を増やすことで、自己肯定感を高めしていく必要がある。	生徒指導主事 教育相談主任
●健康・体づくり	○「安全に関する資質・能力の育成」	○生徒の交通事故を0(ゼロ)にする。 ○インフルエンザ、新型コロナウイルスなどの感染症を予防する。 ○情報機器などの正しい使い方を理解させる。	・交通安全教室などを通して、交通ルールを守ることの大切さを理解させる。 ・手洗い、うがい、手指の消毒、換気など、感染症対策に取り組ませる。 ・技術科や道徳、情報モラル教室などを通して、情報モラルについて学び、ゲーム依存やスマホ依存に陥らないようにさせる。	A	・交通安全教室や交通立ち番などを通して、交通ルールを守ることの大切さを理解させることができた。 ・手洗い、うがい、手指の消毒、換気など、感染症対策に取り組ませている。 ・技術科や道徳、情報モラル教室などを通して、情報モラルについて学び、ゲーム依存やスマホ依存に陥らないように啓発に努めている。	B	・交通安全教室や交通立ち番などを通して、交通ルールを守ることの大切さを理解させることができた。 ・手洗い、うがい、手指の消毒、換気など、感染症対策に取り組ませている。 ・技術科や道徳、情報モラル教室などを通して、情報モラルについて学び、ゲーム依存やスマホ依存に陥らないように啓発に努めているが、SNSに関するトラブルの解決には至っていない。	B	・手洗い、うがい、手指の消毒、換気など、感染症対策に取り組ませているが、新型コロナウイルスやインフルエンザ感染が多かった。今後も引き続き、感染症対策に取り組む必要がある。 ・各教科の授業や、情報モラル教室などを通して、情報モラルについて学び、ゲーム依存やスマホ依存に陥らないように啓発に努めているが、SNSに関するトラブルが絶えない。今後も啓発をする必要がある。	生徒指導主事 保健主事
	○「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	○朝食の喫食率90%以上にする。 ○給食の残食数を10%以下にする。 ○「健康に良い食事をしている」生徒80%以上を目指す。	・毎日の給食指導や学活、教育活動全体を通して食の大切さを学習させ、食育や健康増進に努める。	A	・毎日の給食指導や学活、教育活動全体を通して食の大切さを学習させ、食育や健康増進に努めている。	A	・毎日の給食指導や学活、教育活動全体を通して食の大切さを学習させ、食育や健康増進に努めることができた。	A	・望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成を目指していく。	食育担当
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・ICTを活用することで見直しをもって業務に取り組ませる。 ・定時退勤日を遵守させる。 出張の際の勤務時間以降は帰宅させる。	B	・ICTを活用することで見直しをもって業務に取り組ませている。 ・定時退勤日を遵守させることができなかった。	B	・ICTを活用することで見直しをもって業務に取り組ませている。 ・定時退勤日を遵守させることができなかった。 出張の際の勤務時間以降は帰宅させるようにしている。	B	・超過勤務時間を減らす工夫が必要である。	教頭
	○適切な部活動の在り方についての研修と実践	○部活動の運営を組織的にを行い、活動時間のガイドラインを遵守する。	・年度当初に部活動保護者会を実施し、活動時間のガイドラインについて理解と協力を得る。 ・複数顧問制で、交代して指導を行う等、効率的・効果的な部活動の運営を行う。	A	・年度当初に部活動保護者会を実施し、活動時間のガイドラインについて理解と協力を得ている。 ・複数顧問制で、交代して指導を行う等、効率的・効果的な部活動の運営を行うことができた。	A	・年度当初に部活動保護者会を実施し、活動時間のガイドラインについて理解と協力を得ることができた。 ・複数顧問制で、交代して指導を行う等、効率的・効果的な部活動の運営を行うことができた。	A	・効果的・効率的な部活動運営を目指していく。	部活動担当(保健体育科)

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		主な担当者		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価				
				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果		評価	意見や提言
○開かれた学校づくり	○コミュニティ・スクールの実施に向けた取り組み	○運営協議会の組織づくりを行う。 ○関係者の実施に向けた理解度80%以上を目指す。	・運営協議会の複数実施で、関係者の理解と協力を得る。 ・先進校への視察や問い合わせ等を通して、運営協議会の在り方を探る。	B	・2回の運営協議会を通して、関係者の理解と協力を得る準備ができています。 ・先進校への視察などをして、運営協議会の在り方を探るまでは至っていない。	B	・3回の運営協議会を通して、関係者の理解と協力を得る準備ができています。 ・先進校への視察や問い合わせ等を通して、運営協議会の在り方を探るまでは至っていない。	B	・運営委員会を立ち上げることはできたが、関係者の理解と協力を得るまでは至っていない。 ・先進校への視察や問い合わせ等を通して、運営協議会の在り方を探る必要がある。	教頭
○	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自成果指標・任意)	・							

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	<p>・学習面では、興味・関心を高めるような授業の工夫、「めあて」を明示し、「振り返り」を行っていますかの設問では、保護者、生徒、職員いずれも高い水準を占めているが、家庭学習についての設問に関しては、やや低い水準にとどまっている。今後、家庭学習にも手を入れながら、学力向上に努める必要がある。</p> <p>・生活面では、あいさつや返事などの面では、保護者、生徒、職員いずれも高い水準を占めており、落ち着いた学校生活を送れているが、情報機器の使用に関する啓発についての設問に関しては、やや低い水準にとどまっている。今後、情報機器の使用に関する啓発に力を入れる必要がある。</p>
--------------------	---